

第 12 回市史講座ミニレポート：平成 30 年 3 月 24 日（土）

シンポジウム「松江城をめぐる諸問題と今後の展望-松江市史「松江城」の出版によせて-」



松江市史講座では、『松江市史』別編 1「松江城」の刊行にあわせ、シンポジウムを開催しました。中井均先生による基調講演、和田嘉宥先生・河原荘一郎先生からの報告、西尾克己松江城部会長の司会によるパネルディスカッションが行われました。

中井先生は基調講演で、自治体史において「城郭編」が 1 冊にまとめられて刊行された例は、『姫路市史：姫路城』、『七尾市史：七尾城』、『小松市史：小松城』など極めて稀であり、自治体が城を誇りとしていることがよく分かる、と指摘されました。

次に、関ヶ原合戦後の「慶長の築城ラッシュ」における松江城の築城の特徴を述べられ、領国を防衛する支城網について、出雲・隠岐（堀尾家）と筑前（黒田家）・芸備（福島家）の場合を比較されました。

また、松江城天守を研究するにあたって、配置（独立式・複合式・連結式・連立式）と構造（望楼型・層塔型）から捉える従来の考え方を述べ

られ、松江城天守は「複合式望楼型」だと説明されました。新たに注目すべき点として、造営時期をあげ、

- I期：天正4年（1576）～慶長5年（1600）、絶対的支配の象徴としての天主（天守）
- II期：慶長5年（1600）～元和元年（1615）、軍事施設としての天守
- III期：元和元年以降（1615～）、藩のシンボルとしての天守

とし、松江城は彦根城・姫路城とともにこのII期にあたり、軍事施設としての天守であると紹介されました。

終わりに、かつて全国には300の藩があり、そのうち200に城があったが、200城のうち天守が現存するのは12城、12城のうち国宝は松江・姫路・彦根・犬山・松本の5城しかないとし、稀少性を指摘されました。松江城の国宝指定は、地域に誇りと自信を与え、郷土愛の醸造につながっていくとし、今後も松江城と城下町を守り伝えていく重要性を述べて講演を締めくくられました。

和田先生は「松江城城郭施設の諸問題と今後の展望」と題し、建築分野から講演されました。

別編「松江城」編纂を通じて得られた知見として、松江城の城下図では堀尾期から幕末に至るまで大きな変化は基本的に見られないこと、松江城の建物については修理が頻繁に行われたこと、御殿建築は基本的に江戸初期から踏襲されているが藩主の家族の住む奥の部分は変化していることなどを説明されました。

また、従来あまり知られていなかった三之丸之内（御花畑・御鷹部屋）の城郭施設についても取り上げました。中でも松平不昧の茶室「妙喜庵」が御花畑のどこに建っていたのかなどは今後の検討課題とされました。また、御鷹部屋の東側に建てられていた「若殿様御殿御絵図面」と「初代島根県庁建家図面」が類似していることから、藩政時代の建物を改修して明治初期に使用していたことなどを紹介されました。

初期松江城天守の姿については、天守の修復記録と昭和の天守修理での調査内容をもとに説明され、先生が検討した復原案を紹介されました。また、今回の別編「松江城」では明治以降の松江城の変遷も取り上げていることも伝えています。

終わりに、別編「松江城」編纂のために収集された諸資料の保存と活用がこれからの課題である、と締めくくられました。

河原先生は「松江城下町の造成に関する諸問題と今後の展望」と題して土木分野から講演され、担当された別編「松江城」第四章「松江城下町の造成」の内容について解説されました。

城下町造成については伝承だけで、建設時の一次史料は実際にはほとんど残されていないこと、難工事とされた宇賀山の掘削は、砂山であったため比較的簡単に行えた可能性があること、城下町では築城工事以外にも嵩上げが行われたがその原因と時期については検討する必要があることなどを述べられました。

『島根県史』には、「宇賀山の掘削土」は城下町建設に使われたという伝承が記されていますが、調査結果によると、松江城内で使用されたのはおよそ57%で、現在の松江歴史館、裁判所など一部の場所でしか使用されておらず、残りの土の行方は今後の調査課題だと説明されました。

また、雑賀地区は発掘調査も少なく、ボーリング土質柱状図より旧地表面を推定したこと、天神川の開削時期も今後考えるべき問題のひとつであることを指摘されました。



最後のパネルディスカッションでは、西尾部会長の司会のもと、各先生から刊行を迎えての感慨と、今後の研究テーマが語られました。

その中で、別編「松江城」のために収集された諸資料の保存・活用、および新たな史料の調査研究が課題として挙げられ、松江にしかない魅力である松江城と城下町の歴史を伝えていくことが大切である、と指摘されました。

最後に西尾部会長は、今後、別編「松江城」を生かして市民の皆さんと一緒に学ぶことも大事にしたい、とまとめ、シンポジウムは終了しました。